

越前海岸で獲れた降海アマゴ

加藤 文男

On a Sea-run Specimen of *Oncorhynchus rhodurus* Collected on the Echizen Coast, Facing the Japan Sea

Fumio Kato

(Received September 20, 1977)

A sea-run specimen of *Oncorhynchus rhodurus* Jordan et McGregor was collected by a set net on May 8, 1977 on the Echizen Coast in Fukui Prefecture, facing the Japan Sea. Counts and measurements on this specimen are presented. It is presumed that this salmonid fish is derived from the amago *O. rhodurus* which was previously introduced artificially into the upper streams of Kuzuryu River tributaries or the Kuroko River in Fukui Prefecture.

(Takefu Senior High School, Takefu, Fukui Pref., 915, Japan)

これまで、降海性のアマゴ *Oncorhynchus rhodurus* Jordan et McGregor は天竜川、長良川、伊勢湾、瀬戸内海など、西南日本のアマゴ分布圏内の河川や沿岸海域でみられている（加藤, 1975）。

今回、福井県の越前海岸で 1977 年 5 月 8 日、降海したアマゴ *O. rhodurus* が 1 尾、サクラマス *O. masou* (Brevoort) と一緒に採捕された (Figs. 1, 2). ブリ漁を主目的とする沿岸定置網 (南条郡河野村糠漁業協同組合経営) により獲られたものである。採捕地点は、河野村糠 (九頭竜川河口から南へ約 42 Km) の約 500 m 沖である。同地点の表水温は、13°C (同年 5 月 4 日測定) であった。

標本の形態測定値を Table 1 に示す。標準体長は 335 mm, 体側は銀白色でマークは消失し、背鰭先端は黒化している (Fig. 2). 体側に赤点が約 50 個 (左体側面) 散在し、側線の上側に多く分布する。鱗に冬帶 (Wz) が 1 個あり、その外側に特に間隔の広い隆起線 (Br) がみられたことから (Fig. 3), この標本は、冬帶形成後に降海し、海域で急速に成長したものと推察される。上記標本の形態、鱗相はすべて伊勢湾などで獲られ

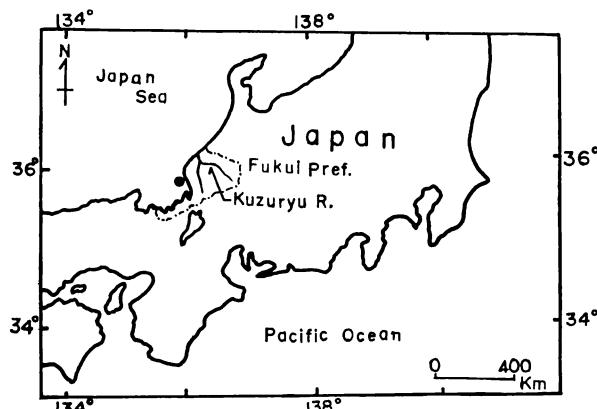


Fig. 1. Map showing the locality where the present specimen of *Oncorhynchus rhodurus* was collected (solid circle).

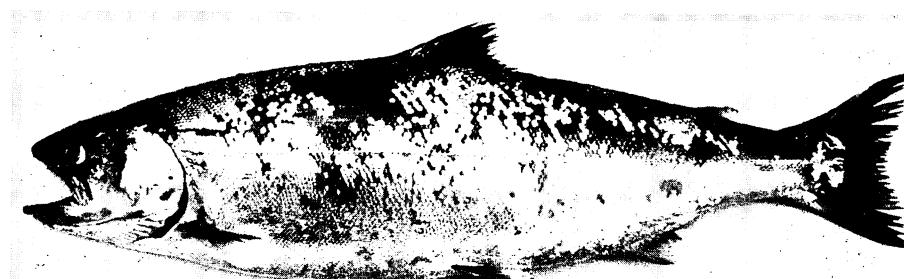


Fig. 2. A sea-run specimen of *Oncorhynchus rhodurus*, 355 mm in standard length, collected on May 8, 1977 on the Echizen coast in Fukui Pref., facing the Japan Sea.

Table 1. Counts and measurements of a sea-run specimen of *Oncorhynchus rhodurus*, collected on the Echizen coast in Fukui Pref., facing the Japan Sea.

Character	Data
Total length	380 mm
Standard length (SL)	335 mm
Head length (HL)	75 mm
SL/Head length	4.47
SL/Body depth	2.50
SL/Depth of caudal peduncle	11.55
HL/Snout length	3.41
HL/Diameter of eye	5.36
HL/Interorbital width	2.68
HL/Length of upper jaw	1.79
Dorsal fin rays	14
Anal fin rays	14
Pectoral fin rays	15
Ventral fin rays	10
Gill-rakers	19
Branchioosteagal rays	14
Pyloric caeca	51
Scales above lateral line	28
Scales on lateral line	126
Scales below lateral line	29
Body weight (g)	700
Sex and maturity	immature female
Date of capture	May 8, '77



Fig. 3. A scale of a sea-run specimen of *Oncorhynchus rhodurus*, 335 mm in standard length. Wz, winter zone; Br, broad ridge.

た降海性のアマゴ（加藤, 1973 a, b, 1975）と同様であった。

福井県の河川は日本海へ注ぎ、また河川の上流にはヤマメ（河川型）*O. masou* が生息する（加藤, 1965）。降海型のサクラマスは、春季に越前海岸でみられ、九頭竜川などへも現在少数であるが溯上する。日本海側では、サクラマスは熊本県以北に分布し（中村, 1963），越前海岸はその分布圏である。

このようにサクラマスの分布圏内で、降海アマゴが獲られた理由として、福井県河川へのアマゴの放流が考えられる。アマゴは、九頭竜川上流（大野郡和泉村）や黒河川上流（敦賀市、笙の川支流）にも（加藤, 1965）、また 1972 年以降に日野川（九頭竜川支流、南条郡今庄町宇津尾）にも放流され、生息している（筆者確認）。上記のうち、特に日野川は、下流に堰堤がなく、魚の降下は可能である。長良川のアマゴが変態して伊勢湾へ降海する（加藤, 1973 b）ように、今回の標本は福井県河川へ移植されたアマゴが降海し、越前海岸で獲られたものと推察される。

これまで、サクラマスあるいはヤマメの分布圏から、降海性のアマゴが報告された例はないようである。現在、越前海岸で獲られる降海アマゴは少ないが、その地理的分布は、アマゴの移植によって、今後一層攪乱されることが考えられる。

標本の採集に御協力頂いた河野村糠漁業協同組合の木村進氏に深謝する。

引用文献

- 加藤文男. 1965. 福井県の分水嶺を境とするヤマメとアマゴの生息. 生物研究（福井）, 9 (1, 2): 13~19, figs. 1~3.
 加藤文男. 1973a. 伊勢湾で獲れたアマゴの降海型について. 魚類学雑誌, 20 (2): 107~112, figs. 1~7.
 加藤文男. 1973b. 伊勢湾へ降海するアマゴの生態について. 魚類学雑誌, 20 (4): 225~234, figs. 1~10.
 加藤文男. 1975. 降海型アマゴの分布について. 魚類学雑誌, 21(4): 191~197, figs. 1~2.
 中村守純. 1963. 原色淡水魚類検索図鑑. 北隆館, 東京, iv+258 pp., 191 figs.

(915 福井県武生市村国町八幡 福井県立武生高等学校)